

がん相談支援センターニュース 2025.6 Vol. 1

1 知っていますか！？がん相談支援センター

全国のがん診療拠点病院に設置され、
がんの治療や療養中の生活の様々な相談に専門の相談員
(看護師やソーシャルワーカー) が対応しています。

- がんに関すること何でも相談可。
- 誰でも何度でも無料。
- 秘密厳守。匿名でもOKです。

診断前でも
県病院に受診し
ていなくても



2 どんなことをしてる？

①がん相談 看護師・社会福祉士の相談のほか、がん専門医の相談も無料！ 県内唯一！

●治療について

- ・がんや治療について詳しく知りたい
- ・セカンドオピニオンを聞きたい
- ・緩和ケアを受けられる病院はあるか
- ・治療の副作用と上手に付き合いたい

●家族とのかかわりについて

- ・家族にどう話していいかわからない
- ・家族に心配をかけるのではないかな
- ・家族の悩みも相談したい
- ・家族として患者にどう接してよいかわからない

●希少がんについて

- ・希少がん(患者の数が少ないがん)の詳しい情報を知りたい
- ・希少がんの治療や療養について相談したい

●療養生活、制度やサービスについて

- ・仕事を続けながら治療はできるか
- ・自宅で療養したい
- ・活用できる助成・支援制度、介護・福祉サービスを知りたい
- ・介護保険の手続きを知りたい

●今の気持ち、不安や心配などについて

- ・今の気持ちを話したい
- ・不安でたまらない
- ・気持ちが落ち込んでつらい
- ・何を相談してよいかわからない

●医療者とのかわりについて

- ・医師の説明が難しい
- ・医療者に自分の疑問や希望をうまく伝えられない
- ・何を質問すればよいかわからない

●AYA世代(15歳～30歳代)のがんについて

- ・学校は続けられるか
- ・就職や仕事はどうなるか
- ・育児のことで困っている
- ・子どもや親、職場や学校にどのように伝えればよいかわからない



利用者満足度
99%

仕事・お金、
利用できる制度
のことも

県立広島病院

がん専門医よろず相談所

「知りたいけど、聞けない」「どこに相談したらよいかわからない」そんな思いにお答えするため、がん治療に詳しい医師による無料相談を行っています。

相談医	板木県がんセンター名誉所長 児玉 哲郎 医師
日程	毎週 火曜日 13時～16時
方法	面談(予約制) 電話でお申し込みください
対象	がんと診断された方、ご家族 ※当院を受診していない方も利用できます

がん相談支援センター
がん専門医よろず相談所

中央棟1階

無料

どんな質問にもお答えします!!

②患者サロン 医療者による学習会、患者さん同士の交流会を開催

2025年度の予定

7/18 (金)	乳がん	消化器・乳腺外科部長 野間 翠 医師
9/17 (水)	食事と栄養	栄養管理科 管理栄養士

10月以降は「ゲノム医療」「大腸がん」「運動」「緩和ケア」など予定



当院のがんサロンには広島県がんピアサポーター(専門の研修を受けた患者や家族の方)方が参加。「同じような体験をした方と話がしたい」そんな希望に添えるよう運営しています。

Q.がんになったら仕事はできない？ A.すぐに仕事はやめず相談してください。	治療の進歩で生存率が向上しています。一方で、治療の長期化や医療費の支払いで生活を圧迫する問題も生じています。 病状や治療が生活に及ぼす影響をふまえ、職場にどう伝えたいか、利用できる経済的な支援制度はないか等一緒に考え、治療と仕事の両立を支援します。	両立支援コーディネーター研修を修了した相談員や、広島産業保健センターの社会保険労務士等にも相談ができます。
Q.緩和ケアはどうすればうけられる？ A.どんなことにお困りかお話をきかせてください。 困りごとに応じた支援をご案内します。	緩和ケアとは体、心の苦しみを緩和することです。 主治医等が痛みや症状の治療や心のケアをしていることも緩和ケアです。 病状の進行によるつらい症状がある場合、専門的な緩和ケアを行う緩和ケアチームが当院では活動しています。まずは主治医にご相談ください。	もしもにそなえてどんなことを考えたらいいいのか、どのような療養場所があるのか、緩和ケア病棟等の入院についてや、自宅で過ごすときの地域の支援について等のご案内をしています。
Q.がん治療したら将来子どもを授けられない？ A.治療内容により不妊のリスクは異なります。	将来子供を授かる可能性を残す治療（妊孕性温存療法）の相談ができます。 治療部位や、治療方法により不妊のリスクは異なります。受精卵や未受精卵、精子の凍結保存などの妊孕性温存療法があります。	がん相談支援センターは、AYA世代がん妊孕性温存相談窓口も開設しています。 AYA（アヤ）世代： Adolescent & Young Adult（思春期・若年成人。およそ15～39歳）の方の妊娠、子育て、仕事、将来のこと等の相談もできます。



「運動のすすめ」 ピアサポーター太田清美

私はこれまで3度のがんを経験して、最後の治療から7年が過ぎました。

抗がん剤の治療は本当に辛く、想像を絶する全身痛や高熱、吐き気に悩まされて生きるための治療ということを見失いかけたこともありました。何より驚いたのが筋力の低下、特に足の筋肉がすっかり落ちてしまい少し歩いただけで膝が痛い短い距離を歩くだけでも苦労したことです。

そんな私が職場復帰を果たしたのをきっかけに、リハビリとして始めたのがフラ（ダンス）です。ゆったりした音楽に合わせて気持ち良く体が動かせると思い始めましたが、これが意外にハードで、レッスン後は全身筋肉痛でした。それでもレッスンは楽しく、1年後には乳がん治療後に上がりにくかった腕が、しっかり上がるようになり、太ももの筋肉も元通りになって、長距離も歩けるようになりました。何より元気になったのが実感できました。

特に乳がんはガイドラインに適度な運動を行う女性は、行わない女性に比べて乳がんの再発や死亡のリスクが低くなることがほぼ確実に示されています。みなさんも無理のない適度な運動を心がけてはいかがでしょうか。

太田さんは同じような悩みを持つ人を支えあう「ピアサポーター」として2019年より活動されており、当院のがんサロンにも参加されています！

